

平成 28 年度 生駒市行政改革推進委員会
第 3 回 会議録

開催日時 平成 28 年 9 月 12 日（月） 午後 2 時～午後 4 時
開催場所 生駒市役所 4 階 401 会議室

出席者

（委員） 松岡副委員長、谷中委員、小林委員、塚原委員、一柳委員
（事務局） 今井総務部長、西川総務課長、山本総務課課長補佐、渡辺行政経営係長、
片山総務課係員

（傍聴者） なし

欠席者 森委員長、藤堂委員

1 開会

2 案件

（1）後期行動計画の取組状況の確認について

（松岡副委員長） 後期行動計画の取組状況について、各委員から意見や総合評価案を出
していただいている。本日は前回の続きである No. 9 から取組状況に対す
る評価を議論していきたいと思う。

9. 既存公共施設等の活用と長寿命化に向けた中長期的な計画策定

（松岡副委員長） 意見等はあるか。取組状況については数値目標と大きな開きがある。

（事務局） 目標の大半を占める公共施設の中長期修繕計画の立案については、国
から公共施設等総合管理計画を策定し、それに基づいて進めるように指示
があったため、平成 27 年度については個別の施設についての計画策定を
見送った。

（松岡副委員長） 予算としてはどのように設定しているのか。

（事務局） 公共施設の整備のために基金として積み立てているものはない。毎年
様々な改修が必要となっている。

（松岡副委員長） 目標との間に開きがあることも事実だが、やむを得ない事情もあると
思う。評価としては数値目標から判断し「D 評価」とするか、個別施設の
計画策定に向けて着実に進んでいることを評価して「C 評価」とするかだ
と思う。

- (谷 中 委 員) 行政側の事情もよく分かるが、市民目線で見ると施設の修繕が遅れる心配もあるので「D 評価」が妥当だと思う。
- (一 柳 委 員) 目標値自体が高すぎる気もするが、「D 評価」で良いと思う。
- (小 林 委 員) 行政側の事情は分かるが、進捗状況から見て「D 評価」で良いと思う。
- (松岡副委員長) では数値目標の達成状況に重点を置いて「D 評価」でよろしいか。
- (各 委 員) はい。

10. 広域連携を活用した事業等による市民サービスの向上

- (松岡副委員長) 他市町村との連携については生駒市が主導的に働きかけることが多いのか。
- (事 務 局) 様々なケースがあるので一概には言えない。県が積極的に推し進める奈良モデルのようなケースもある。
- (松岡副委員長) 平成27年度の実績値は0件となっているが、これまでの連携の実績はどのようなものがあるのか。
- (事 務 局) 平群町との施設の相互利用や、奈良市との消防通信業務の連携がある。県外では四條畷市と防災連携を結んでいる。防災の連携については遠方の自治体との連携も検討している。
- (松岡副委員長) 継続して連携していることを踏まえると評価も変わってくると思う。
- (谷 中 委 員) 消防の通信業務の一体化については、当初は奈良市に任すというイメージを抱いており不安があったが、生駒市の消防職員が行っていると聞き安心した。
- (事 務 局) 利用者からすれば、これまでと変わらないと思う。
- (松岡副委員長) 今後防災関係では特に、他市町村との連携が必要不可欠になってくる。このようなことを踏まえても様々な分野で連携を進めていることは評価できると思う。一定の成果が得られたということで「C 評価」でよろしいか。
- (各 委 員) はい。

11. 環境マネジメントシステムの推進による公共施設の省エネルギー化

- (松岡副委員長) 事前にいただいた各委員の評価では「B 評価」がほとんどである。意見等はあるか。
- (各 委 員) 特になし。
- (松岡副委員長) 事前に質問に対して回答をいただいているが、無電極放電ランプの取組や再生エネルギーの活用などは評価できると思う。予定どおりの成果が得られたということで「B 評価」でよろしいか。
- (各 委 員) はい。

1 2. ごみ半減プランの推進

- (松岡副委員長) ごみ有料化は市民に浸透してきていると思う。リサイクルセンター整備について補足の説明をいただきたい。
- (事務局) リサイクルセンター自体の整備検討だけでなく、清掃リレーセンター跡地活用の側面があった。回答にもあるように、今ある清掃リレーセンターの方向性を検討する必要が出たため、場所的な意味でリサイクルセンターの整備は見送られることとなった。
- (松岡副委員長) 目標値は達成していないが、取組については成果が見られていると思う。トータルに考えると「B評価」か「C評価」だと思う。
- (谷中委員) 予定どおりの成果が得られたとは言いがたい。ごみ出しについてもある程度の分別にとどまってしまっている。
- (一柳委員) ごみはだいぶ減っているが、世帯によって意識の差がある。ごみ袋に名前を書くなど、更に厳しくすることもできると思うが、気長に待つことも必要だと思う。
- (事務局) 状況を見ながら判断していきたいと思う。
- (松岡副委員長) 削減率で目標には達していないが、今までの取組と今後の取組等を評価して、一定の評価が得られたとして「C評価」でよろしいか。
- (各委員) はい。

1 3. 財政計画に基づく経常収支比率等の指標管理

- (松岡副委員長) 事前にいただいた各委員の評価では比較的高評価となっている。意見等はあるか。
- (事務局) 指標について補足させていただくと、経常収支比率、実質公債費比率、市債残高については数値が低いほうが良く、基金残高については高いほうが良い。平成26年度決算の実績値としては全ての項目において目標値を上回っている。
- (松岡副委員長) 財政に関する取組状況の評価の基準としては、数値目標が一番分かりやすい。ここまでの良い数値を出すのは大変難しいと思う。
- (事務局) 平成24年度と比較しても向上しており、目標の設定も決して甘いものではないと思う。
- (松岡副委員長) 生駒市の財政改革については大変評価している。「A評価」でも良いのではないかと思う。よろしいか。
- (各委員) はい。

1 4. 中長期的な税財源等の安定確保に向けた重点投資

(松岡副委員長) 子育て支援等について一定の成果が得られたと評価を得ている。意見等はあるか。

(事務局) 待機児童については潜在的なニーズを持っている人もたくさんおり、保育所を作ってもなかなか追いつかない。

(一柳委員) 保育所はこれからもどんどん作っていくのか。

(事務局) 当面の間予定はない。公立の保育所は国からの補助金が出ないので社会福祉法人頼みとなっている。市有地も減ってきており、社会福祉法人自らで土地を工面しないといけないので大規模の保育所を作ることは厳しい。

(松岡副委員長) 人口推計を見ると、これから10年程度は待機児童もおり保育所のニーズがあるが、少子化が進んでおりその後はニーズが見込めない。民間の法人だと特に、収益を上げないといけないので新しく作るかどうかの判断が難しい。この取組については先を見据えて進めていかないといけない。評価としては予定どおりの成果が得られたということで「B評価」で良いのではないかと思う。よろしいか。

(各委員) はい。

15. 市税の収納対策の推進

(松岡副委員長) いろいろな方法で納付できるようにしたことはとても効果があると思う。徴収率を上げるためにどのような取組を行っているのか。

(事務局) 納付方法の周知や滞納者への督促の強化を行っている。

(谷中委員) 目標値は妥当なのか。

(事務局) 現年度分と滞納分があり、現年度分については99%以上払っていたが、滞納分を合わせるとそれぐらいの数値になる。

(小林委員) 他市町村と比べるとどうなのか。

(事務局) 現年度分は県内でも高い。総合的に見ると真ん中ぐらい。

(松岡副委員長) 全国的に見ても悪いほうではない。滞納分についても様々な取組をしていると思う。現状を踏まえて、少しでも払いやすいように納付方法を増やすことは行政としてすべきことをしていると思う。その結果も出ているので予定どおりの成果が得られたということで「B評価」でよろしいか。

16. 行政需要を踏まえた職員数の適正管理

(松岡副委員長) 職員数が減ると手が回らない仕事が出てくると思うがどのように対応しているのか。

(事務局) 現実的に見て仕事は増えてきている。臨時職員や再任用職員を雇用して対応している。

- (松岡副委員長) 職員数800人という目標が適切かどうかは議論が必要だと思う。
- (塚原委員) 人数を追い求めているが、人数が揃っても、能力のある人材が集まらないと仕事は回らないのではないか。
- (事務局) 採用についても様々な取組をしており、応募人数等で結果が出ている。
- (松岡副委員長) 職員の年齢の比率はどのようになっているのか。
- (事務局) 50代後半の職員が多いなど、年代によって多少の差はあるが、少なくとも2年に一回は採用しているので、ある程度均等に分布しており、ある年代が極端に少ないということはない。
- (松岡副委員長) この項目の評価については、取組を進められており予定どおりの成果が得られたということで「B評価」でよろしいか。
- (各委員) はい。

17. 人件費の抑制と能力・実績を重視した給与制度の構築

- (松岡副委員長) ひとりひとりの人件費については国に準拠しているので自治体によって差は少ない。職員の数で人件費の総額を管理していると思うので、(16)の項目にも関連している。
- (事務局) 臨時職員や再任用職員も含めて人件費を管理している。
- (松岡副委員長) 予定どおりの成果が得られたということで「B評価」が妥当だと思う。よろしいか。
- (各委員) はい。

18. 能力と意欲に応じた柔軟な任用制度の構築

- (松岡副委員長) 意見等はあるか。
- (各委員) 特になし。
- (松岡副委員長) (16)、(17)の項目と連動しており、これまでの議論から判断すると「B評価」が妥当だと思う。よろしいか。
- (各委員) はい。

19. 人事評価制度の効果的な運用

- (松岡副委員長) 意見等はあるか。
- (各委員) 特になし。
- (松岡副委員長) 職員自ら自己評価をしているのか。
- (事務局) まずは自己評価を行い、その後上司による2段階の評価がある。人材育成基本方針に則って進めている。
- (松岡副委員長) 方針に則って進められているのであれば、予定どおりの成果が得られたということで「B評価」が妥当だと思う。よろしいか。

(各委員) はい。

20. 職員の資質向上・能力開発の推進

(松岡副委員長) 意見等はあるか。

(塚原委員) 民間企業派遣研修をされているが、民間企業の業務内容と市役所での業務内容は明らかに違うと思う。その中で民間企業派遣研修での経験がどのように活かせるのか。

(事務局) 様々な研修のうちのひとつである。民間企業派遣研修は主にサービス業を行っている企業に派遣し、接客等を学ぶことが多い。民間企業と行政では業務内容は異なるが、接遇に関しては民間企業から学ぶことは多く、一定の効果があると認識している。

(松岡副委員長) 期間はどれくらいか。

(事務局) 1週間から2週間程度。

(松岡副委員長) 民間企業以外の研修や職員交流はあるのか。

(事務局) 2年間程度、国の機関や県庁に行くことがある。

(松岡副委員長) 民間企業派遣研修は効果があると思う。評価としては、一定の評価が得られたということで「C評価」が妥当、期待を込めて「B評価」とするのも良いと思う。

(谷中委員) 印象で言うと「C評価」が妥当だと思う。

(松岡副委員長) では「C評価」でよろしいか。

(各委員) はい。

21. 重点施策を効果的に推進できる組織機構の構築と柔軟な運営

(松岡副委員長) 組織が頻繁に変わり分かりづらいと意見があるが、社会情勢に則して対応するためにはやむを得ないところもある。

(事務局) 昨年市長が交代し、それに伴い今年4月に大幅に機構改革を行った。名前や所管事務が大きく変わったので分かりにくいという意見が多数あった。

(松岡副委員長) 横断的な組織もあるのか。

(事務局) 必要なケースがあれば横断的な組織を作る。

(一柳委員) いろいろ考えて組織を変えたのだと思う。それに伴い、市内の掲示物などの課の名前を変える必要が出てくるが、できていないところもある。

(松岡副委員長) 数値目標は、「市役所が市民にとって分かりやすく、利用しやすい組織となっている」とされているので、やや不十分な成果と言えるかもしれない。

(塚原委員) 施策を進めるために組織を変えることは意味があると思う。

(小林委員) 世の中移り変わりが激しいので、機動的に組織を編成することは必要不可欠だと思う。

(谷中委員) 名前が変わると覚えなおさないといけないので、できるだけ変えないでほしいと思うが、やむを得ないことなので「D評価」ほどではないと思う。

(松岡副委員長) 今後はできるだけ分かりやすい組織にさせていただくということで「C評価」でよろしいか。

(各委員) はい。

(2) その他

第4回日程確認

3 閉会

【決定事項】

事務局で「行政改革大綱後期行動計画取組状況評価報告書(案)」を作成し、次回会議で報告書を決定する。